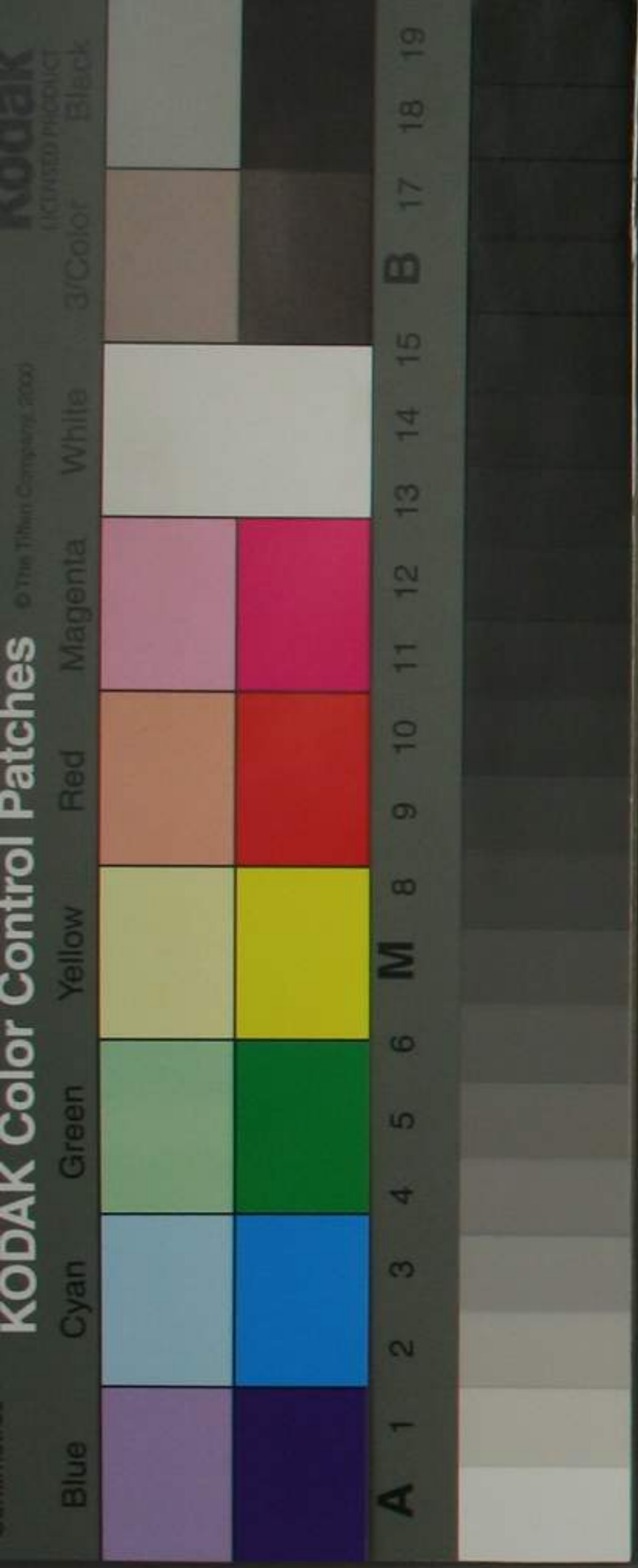




全十冊
西亭主人編
南總里見八犬傳第九輯
五拾三卷三十二丁
画工
柳川重信
丁子屋平玄衛板

九十一

特別
14
600
35



南總里見小太僧第九輯卷之五

東都 曲亭主人編次

第百廿四上内録目

一巻一僧九生榮貴を等しくと
春感の藝詠歌弁異を替ふ

都説角谷山内雨常領里見と和贈致意と會盟の契と果せぬ証
使能合部左衛門尉直親の既小郎京の事あり是より定正顯定の使者と
室所殿をわけて罪過恩免と并誅奉ると定正の使者白石城より重
勝顯定の使者齋藤左兵衛佐高實西家の伴當助かつて隨部直
親と相俱て明日悠々と致とてふの目直親も快然の使とて勅使代
林徳廣當小件の衆とて告るを當り取るとかじ生其使をわけて遣りて
都大江親兵衛と豊崎照文と招れせと告る小件の一衆とてて聲を

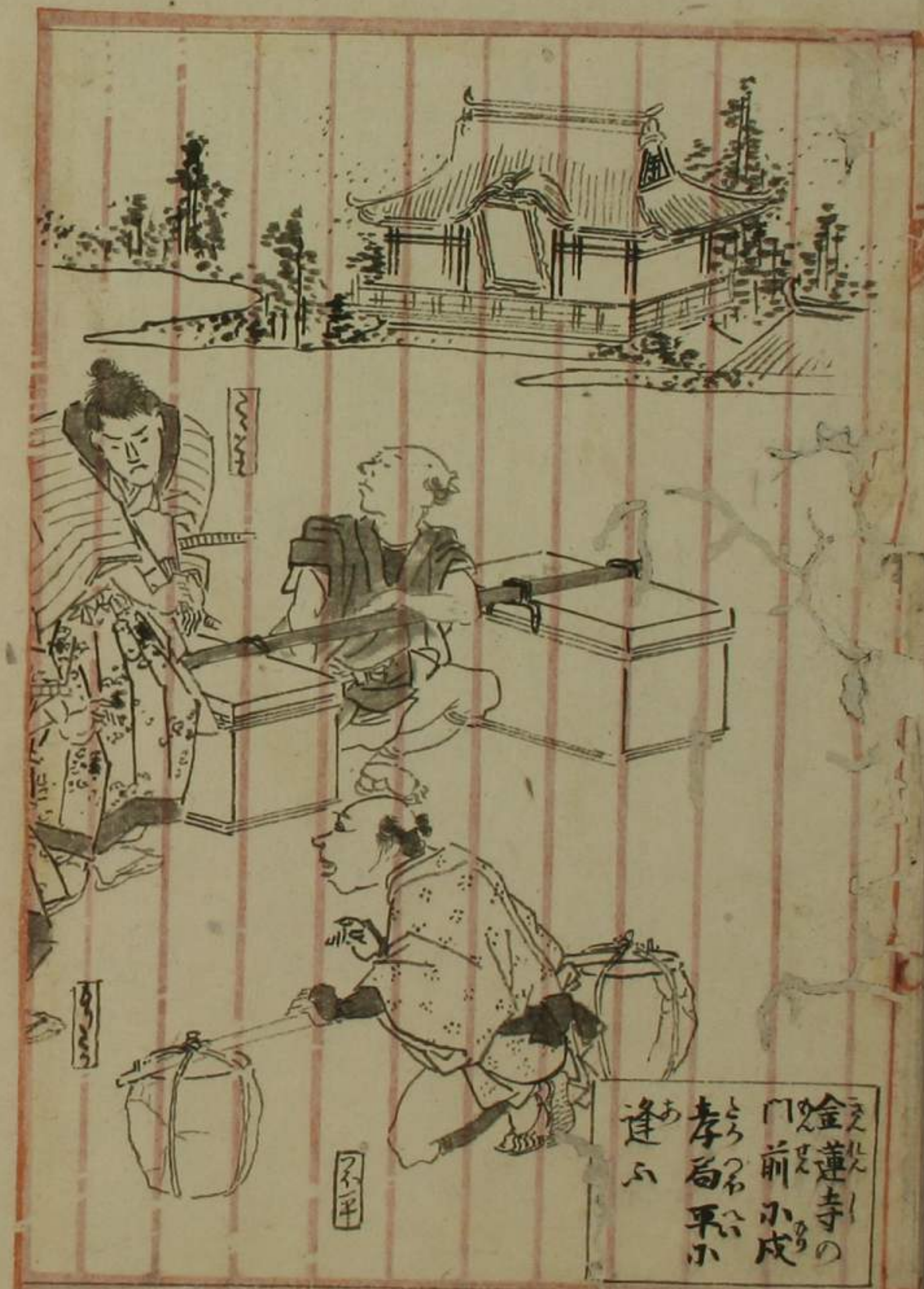
身首を見えられ必死の罪を宥められ頭髪を首小振せられ老
侯の御大恩を今さら空しく仕えられ今那君の御名に捧げ生甲斐
ありと云ふ。縦水火の中にも弊。ゆゑを承る思ふ御誼美りありぬ
参るべしと縁返。や各軍を義政主勢を然る事既小事三照
末六明日ハ大まかて瀧田よりと老部小の事を具小せえし。
猶活音と請するぬ。親兵衛信濃下野等自餘の大士も共此小運
後の準備せしと云ふ。又小部兵庫即朝延并小室所殿へ献る食
東西と有司小調と調達と云言送る。宣せられ大衆齊
し言表。七も連立と退せける左右も。程小署執務増六月五
日の朔秋條將曹廣當の明日の旦雨小當所と建りと歸京と下と
不吉あり。か義政主より親兵衛と弟文と。候別の人情あり去京

測崎の港より相模の大磯へ渡。東海道をよるべと豫定せられ
大江親兵衛大場信濃大坂下野大田道新大村大次郎大庄次大寺
豊後大銅現八兵衛等六人。豊崎照大、大法師と皆廣當小相
便七と松の細見と解し。と義政主僧俗十人の伴當小胡意等
し。七もか。親内共。西郡。後同。後。直。塚。紀。三。木。滑。地。喜。助。本。を。首。と。七。輕
率。奴。隷。夫。娘。あり。廣。當。の。従。者。と。俱。百。五。十。名。并。る。入。六。月。六。日。の
早。天。小。主。僕。巨。勢。の。も。来。り。七。大。磯。を。渡。り。清。涼。の。旦。同。京。に。順。風。也。
あの即。早。午。の。時。候。小。件。の。浦。小。を。け。し。が。道。里。より。船。を。測。崎。へ。返。り。て
陸。路。を。西。赴。く。小。石。峰。畔。足。柄。り。や。者。の。故。鄉。を。伊。豆。の。小。莊。の。故。國
る。れ。有。難。小。懐。舊。の。情。あり。あ。を。住。而。目。小。歩。も。夜。小。歌。り。や
と。十。餘。小。七。障。る。と。ある。京。師。小。あ。り。の。時。秋。條。廣。當。小。室。所

殿の朝廷へ返命を奉せしと別れて其方小赴死か。大照文太土
第三條頭小殿下。あると雖も熊谷直親親達。當下
大照文并小土土。東に大照殿。市の満谷大君臣拜位の御礼小
冬上。の。直親親達。其土治の速。を。明。室
河東山の西。所。参上。と。其。進。退。を。指。揮。あり。且。山。内。の
使者。白石。高。藤。高。實。の。拜。礼。の。事。東。大。昨。日。帰。國。を。許。れ
か。收。出。路。を。東。へ。退。り。る。信。れ。る。も。進。退。ま。る。と。明。を。推。し。
并。備。旅。宿。返。され。り。然。が。次。の。日。大。照。文。太。土。管。内。俱。小。朝。服。を
整。て。伴。當。大。役。を。從。つ。る。己。碑。の。左。側。小。室。所。殿。参。上。と。里。見。義
實。義。成。親。子。の。使。者。并。家。臣。大。土。土。謝。恩。の。為。り。上。洛。の。後。を
受。て。上。洛。義。成。主。の。呈。書。上。拜。位。の。執。事。種。を。退。り。せ。り。大。照。文。太
土。

士を正廳へ召せ。管領畠山政長對面あり。熊谷直親親達。當下
政長。大。照。文。太。土。土。向。ひ。て。義。實。義。成。大。土。土。の。忠。信。善。政。と。八
大。土。諸。臣。管。の。勤。功。を。記。し。奉。り。て。今日。も。改。進。將。軍。家。御。禮。小。拜。見。の
語。を。鏡。を。御。上。り。昨。日。も。満。大。安。を。り。せ。り。目。今。の。言。ひ。及。び。目。次
進。参。内。も。異。目。の。御。沙。汰。あり。宿。所。小。退。り。て。其。折。を。候。な。る。と
あり。わ。が。大。照。文。太。土。土。先。度。小。懲。り。せ。り。と思。え。り。と。辭。難。て
い。得。唯。々。と。美。す。り。と。退。り。東。山。殿。入。詣。て。東。西。を。献。さ。る。御。禮。小
其。帰。路。小。管。領。政。長。及。許。定。大。役。の。請。師。を。ら。ち。進。り。て。敵。族。の。人。情。を
察。さ。る。も。亦。美。す。り。諸。方。や。あ。り。且。七。土。土。の。宿。所。小。退。り。て。目。を
甲。冑。の。満。め。込。め。られ。り。昨。日。の。徒。然。小。堪。え。られ。り。大。照。師。の
小。御。禮。を。記。し。て。目。毎。々。小。殿。下。を。出。る。清。用。路。外。り。な。さ。り。目。板

順々車馬正有まわ。わう。いふ。す。あ。を。停。り。も。歸。里。を。許。し。あ。い。こ。
 里。あ。時。官。領。政。元。の。堂。殿。を。巡。ら。し。本。領。河。波。小。寺。の。小。大。士。大。皆。幸。
 恩。恵。の。目。を。免。じ。て。安。房。へ。移。り。移。り。の。こ。の。代。婚。の。神。號。初。額。大。禪。師。の。
 僧。官。小。思。の。優。る。朝。恩。を。ま。か。飲。ひ。勇。ま。さ。る。る。あ。次。の。用。三。條。の。衣。也。主。
 立。ま。り。の。作。當。大。役。を。從。く。岐。山。路。を。安。房。の。ま。り。の。わ。り。大。禪。師。の。敬。
 され。を。敬。飲。心。あ。あ。ら。も。あ。る。と。思。ひ。け。け。信。而。達。僧。九。六。主。僕。百。丁。數。
 餘。吏。を。投。と。取。り。の。馬。路。只。一。日。あ。る。ま。又。月。小。歩。夜。小。歇。り。美。濃。の。壺。井。と。過。
 時。大。塚。信。濃。の。大。馬。太。自。身。謀。の。士。大。士。當。て。誤。留。せ。り。や。達。馬。あ。る。金。道。平。人。
 左。首。嘉。吉。元。年。五。月。十。六。日。春。王。安。主。君。御。事。あ。り。時。我。々。人。大。塚。直。作。三。代。
 其。御。終。焉。を。用。り。の。地。も。ヨ。多。兵。を。敵。の。小。血。戰。て。竟。小。數。敗。七。ける。小。
 我。々。番。作。一。皮。の。當。時。少。年。あ。り。れ。も。忠。孝。義。勇。小。匠。し。か。り。景。當。日。



今又入數中て寺内、つゝかたて事の障りある各位、先宿投て事の
 成るを候ぬ。唯、此局平と伴當四五名を従へ。さて寺僧、相譚ふ
 べし。と云ふ。大家諾いて先紀二六喜助あるを、方明て好宿執として遣
 けり。余程小犬塚信濃成春、局平等を従へ。金蓮寺のを圓小呼門つ

水も三田の菜蔬あり。伴當大役面まで皆従者。子息聚會。似飯の數
 待の過るるべ。當下成存。諸人と俱小役僧。うち當て成卒。非時の數待と
 謝て且し。我々の這回京師。神號の初額を衝なり。安房の稻村。還
 者。未介。故春。三日の志あり。故一路人。雲崎。照文。といひ。故と有。伴當
 數十名。を從て。定本驛の宿屋に在り。我々主僕。三餘名。今日。花事。小觸。有。ハ
 他と。同宿。を。り。と。論。那。三驛。體の。為。今日。り。て。三。不。日。追。着。の。佛。事。を
 せ。夜。を。殊。小。自由。小。り。と。三日の。讀經。累。まで。我々主僕。三。餘。名。小。止。宿。を
 鏡。あり。と。鏡。され。難。驛。内。少。別。小。歇。店。を。求。む。べ。の。証。付。卷。と。談。され。後。僧
 茶。を。開。け。と。易。かり。方。僅。住。持。り。と。る。あり。清。一。路。人。大。禪。師。活。佛。小。と。在。れ
 三。宿。あり。と。東。道。大。結。縁。の。後。あり。來。せる。數。待。る。衆。を。數。ひ。あり。と。我々。を。在。せ
 か。と。い。ふ。成。存。候。ひ。て。開。ハ。幸。旦。かり。就。七。回。り。わ。ね。表。あり。本。驛。小。石。子。あり。

ありて三三圖の草表を作せり。然るのこゝろを彼僧より分て然る定驛図
 中賀地野見六と喚做。一個の石並あり。第三兩三名を使ひて紐立り示
 花かゝる主菜當山に入らる。定藏匠てゆへ今宵人を遣して其後と云
 さまを明日の夙にて参更じと云ふ。春終の果てても亦便更の事あり。
 流しと云ふといふ不役僧の果て又遠く退けり。殆且を住持の老僧一
 個の妙妙の指觸を乗をて餘あるゆへ末の六と六士若小非時の疎客
 る。を唐話と且りる。只今後僧小示をあり。御追唐の讀經の事各
 當寺止宿のふ都て心泊りぬ。福師入笑小神僧中野初客及ふ所も
 りど明日の二首の法事。導師の講せりと議るを。大の炊あはせいと
 かり其誼小當と只是和僧の引接を。後主の願ふ所あり。と登餘談の
 聲ひ。か住僧のゆる放服て散又其辭せど。辭て方大にけり。夜小

と遠客殿に人々を遣りて。御道より名大塚和殿の墓の所へ。あ
路費の黄白猶有。あるも我王僕百十數名あり。逗留の房錢と追尋
三日の法事料。并小祠堂金と建立三箇の墓石料。小や果る。一。改小我
自餘の義足。事等と成。商量ある。我。先。船。餘。金。を。三。十。金。
和殿小借。せ。い。つ。と。い。ひ。つ。の。懷。を。振。舞。て。件。の。金。を。合。せ。下。野。親。兵。衛。
並。中。豐。後。現。兵。衛。大。學。の。各。戰。臺。を。解。同。て。い。や。今。中。と。子。金。を。配。
一。百。金。い。や。合。せ。れ。二。百。十。金。と。數。れ。る。當。り。自。餘。の。六。大。土。の。俱。小。り。あ。り。
大。塚。今。這。金。と。和。殿。の。志。を。資。助。す。我。們。の。新。金。の。土。に。友。て。薄。く。
館。の。恩。澤。の。廣。く。と。和。殿。の。志。意。を。成。す。と。祈。り。ふ。あ。り。あ。る。と。異。同。様。小。
福。の。故。者。の。然。主。和。件。の。金。を。受。主。兼。從。懷。を。勒。壯。壯。と。叙。り。て。長。官。を。宴。し。
二。異。體。を。義。と。承。小。あ。る。と。何。人。も。我。を。資。助。す。亦。館。の。賜。を。成。す。と。祈。り。て。薄。く。と。

先役僧
會釋の印

遠客且預。と。各。て。感。嘆。を。り。け。遠。客。大。小。所。小。寺。と。銘。且。這。里。小。五。三。三。尺。
後。の。の。を。受。主。兼。從。折。り。又。揮。り。人。定。鐘。の。响。を。沙。弥。道。人。宅。を。奉。
改。帳。を。望。れ。臥。草。を。設。て。退。を。り。大。大。土。共。侶。小。麻。て。枕。小。就。ま。あ。け。あ。の。
朝。大。大。土。の。俱。小。風。と。起。り。齋。小。果。折。根。僧。を。告。る。と。作。青。玉。を。
の。い。れ。を。石。五。野。見。六。許。の。遺。の。野。見。六。目。今。此。車。三。輪。墓。石。多。
積。疊。を。車。奴。五。六。小。奉。せ。り。御。人。大。塚。主。小。持。向。せ。り。と。い。ひ。け。
あ。り。と。せ。り。と。い。ひ。成。者。誠。と。祈。り。あ。り。と。い。ひ。最。一。わ。だ。と。い。ひ。と。
石。を。と。熱。役。僧。道。人。を。招。れ。と。那。野。日。を。を。せ。り。銘。且。七。石。五。野。見。を。と。
茶。湯。の。粥。の。を。種。外。食。を。畢。隨。小。握。持。て。客。殿。の。邊。必。と。次。の。圓。跪。せ。
小。司。の。皆。地。野。見。六。と。い。ふ。大。塚。主。五。三。と。同。成。者。按。と。出。大。塚。信。濃。則。
我。の。我。を。和。と。同。成。と。野。見。六。と。膝。を。按。と。出。と。然。と。い。ふ。と。日。

孝小僧入る相天字相星之
自地靴の相似る要ありきと沈吟せし彼僧小僧曰てつや言平公の御山
宝蔵の春主家主君の像見ゆる短刀のゆかりを見當日當寺内中戦死せる大板
匠作三成の彫りゆかりあり且具折三成の彫りを見る鎌倉身田大刀をを蔵り
らぬとやと向へ彼僧沈吟せしを大坂の七骸の當寺總大将清方主の下
知よりて市小僧とて俗人なりと平大刀をゆかりと但春主家主君短刀のみ
蔵のては主君ゆかりと主の太刀ゆかりとをゆかりとて成春とてをゆかり
最自由なり其短刀を見せしゆいとし方丈願せし疾し見を能くありと請
れと彼僧推しぬるをいへをを退次候とて主君許に候而住持の老僧那
西の短刀を表皮儘小僧僧小僧せし客殿へて成春ゆかりとゆかりと只今何
奇事なりと一見を請るなり而公達短刀を稍令をせしゆいとし示彼僧心

改と幸とと速興と短刀の口を成春とて受合とて表皮の短刀を解用死の合と
て是を見ざる是則ち右に桐葉の長短の大小と有餘表装の同様と西のあり
短刀のゆかりと疑ひて住持と彼僧小僧とをゆかりとて這短刀の短刀とてまあり
住持と向れて西僧驚見とるを短刀ありけり然る程ゆかりと不思議と
とゆかりと向疑ひ解さけり然る大の請大士の便ありと悟れり安定小僧
ありと當下成春膝拍鳴るを是と思ひ合とれり最長小僧野見六の三回其を
計とせしとゆかりと那武士正和是被太刀大坂の羽の七魂の假小頭れらゆかり
ゆかりと然りとてわれ西の短刀と前僧の代とる日遣朝士銀あり意ふ我大の
腰りの戦死の折給矢と主未市小僧れり其短刀を合とせしゆいとし示其
外をゆかりとて疑ひと最怪れりゆかりとゆかりと大の請大士の住持
彼僧野見六とて言然るゆかりとて感嘆せしゆいとし示其短刀のゆかりと

二鈔を収め、又、兩箇の短刀の柄、下小返、初め、同一文中の端を留め、短刀を、
 して、あつ、目今、見聞、ゆゑ、二大奇事、の、お願、を、其、短刀、を、い、て、雙、を、
 室、の、と、記、録、し、載、さ、せ、る、。、
 讀、經、の、程、も、あ、は、い、退、り、と、准、備、を、
 辨、し、真、金、を、還、け、る、位、而、成、春、の、又、野、見、六、小、圓、と、い、お、う、時、
 を、作、り、そ、の、我、太、太、の、靈、あ、る、。、事、怪、不、過、さ、れ、も、
 小、真、石、を、建、ち、と、を、
 然、し、三、面、の、御、墓、の、石、の、價、と、細、之、料、と、相、若、し、十五、金、
 點、頭、と、則、圓、金、十五、枚、を、令、出、し、別、小、一、枚、を、相、添、て、
 ち、は、
 い、れ、て、野、見、六、怡、悦、の、境、を、

金子を財庫裏に藏りて平河親基を建りんとしむ。斯に生れ立れば孝ハ先其石を
 見たと俱小身と記して大禪師もも連立て外面投て宗は。姑且と道野のあり
 尋々思ひの思ひん作全の奇事。去歲四月結城にて法會の折。孝皇朝臣の
 御墓石を造。如せ。那十僧の奇事。小似て。その所ある。玲。か。い。と。い。や。を。眼。智。推
 禁。ゆ。に。然。か。り。む。と。大。山。田。と。し。と。其。事。相。似。と。真。趣。同。か。ど。是。則。正。對。之。柄
 又。大。塚。を。孝。子。と。い。ふ。も。と。孝。主。を。感。得。と。其。宗。成。孝。と。是。孝。の。孝。感。ある。事。
 是。も。亦。當。德。小。係。る。所。を。思。ひ。て。只。相。似。と。の。ま。り。か。目。康。の。七。人。あり。と。い。ひ。つ
 呵。と。と。く。水。太。の。道。師。自。失。と。敢。又。我。念。せ。目。餘。の。太。と。俱。小。や。大。板。解。ひ。と
 穩。當。に。誘。め。金。墓。石。と。疾。見。む。あり。と。い。ひ。つ。俱。小。刀。を。引。提。て。外。面。と。立。お。け。り。
 信。而。大。主。大。禪。師。の。野。見。未。だ。造。做。る。君。臣。三。個。の。墓。碑。を。身。の。春。王。安。主。の
 墓。ま。り。石。の。最。上。と。細。工。の。精。前。に。ある。當。主。の。住。持。の。命。たり。弟。兄。の。法。義。を

影倣て嘉吉元年五月十六日と勤王の道三基の墓表の今に並井の金造手小
 幸の又大塚三氏の墓表の石より七杉状なり是れのみ義興塚翁之墓と
 勤王なる意墓表の今有るを智と然が大塚翁の諸大士・大禪師の共侶は是を見
 らも亦邪靈の心を用ひ所教と思ふいや感嘆も介程小息郎が平日天後翁の
 傳の奇事を皆知りて駭嘆せざるゝ招きをもせずして壞を運む墳を築けり野見
 六を助助かりしそす目ありて三基を皆建果て野見たる癖去りけり折り
 追薦の讀經をとなえり諸大士・大り衣裳法衣を西めて本堂前列坐を留と
 作目の如く住持の導師を、大い譲れを敢てした猶客坐をとり助聲を留め
 遣次の有りかの如く三日かて追薦の佛事果れば成香也墓詣て香花燈花に
 をも轉け又客殿へ還りて義興水岩と高量庵の役僧を招いて目録をとり
 布施を渡し小政弁三首の法事料金五十兩主僕三餘名三宿の房錢金五兩

五ノ卷十二丁目

まして他名を寄つてあり莫研を建^た
 身淨の新乾の寺に金十と令^しせりわ大役管ねが有^ら権^をと給ふるある
 け左を寄程小目の暮^れわ太主客六住持小明目の別れを生^じ今帝の亦定^め
 精舍小明目の詰朝の主僕風^を起^しける小役僧浴堂の準備ありといふ大家送^り
 代治て花園の身を寄束と。這時太主客六住持地喜勘をを昭文の宿所遣^{はな}
 今日這地を立^たふむと改葬及墓石の奇事を告^げあんと昭文其ゆゑあ^ら
 八身装て候^へる。但而大誦太主僕の小飯果と庭のまふれ^き
 装束の住持得僧等小別れを告^げ伴當天役と屋敷を將^へ金蓮寺を^い
 立^たふむと二十小過正昭文亦紀三以下の伴當小那助額長徳を^い
 早せや遠方ぞ致さるる邊より當時迄中近つ隨小一重時毀傷小^く
 立^たふむ會話をもちり并中小照文今朝吹知る那奇事をいひて大塚

孝威の幽霊小道具を稱讃と成考の亦小僧村入立。中々就きまゝ生り掛
 り。是より主僕故の知り百十數名あり。夫役管の立替り七長櫃を引つ
 後、小の目より三日小と未下時候小僧村小本小僧。石井、花華庵の墓所
 有。井氏夫妻の墳墓小案内を収隸の毎夫役管の惣と柴門の外面向
 石の局平小水を汲。桶を求めて井の墓小建。と堂下成考。我具
 基を目より親の話説小。小の似と何人の建。と兄三重の墓石あり直秀夫
 事。の流説と歳月を勤。右のす小昔主人未作。邪言級を情地
 瘞。は。処。有。量。小。名。平。寄。起。有。康。尚。乾。有。と。土。機。運。小。似。有。
 成考。小の墓。有。を。説。有。跪。合。堂。と。念。早。上。建。小。目。餘。の。女。士。も。大。禪
 師。送。代。小。回。向。も。信。而。成。考。小。又。石。平。を。案。用。と。花。華。庵。小。呼。門。と。則。庵。ま
 對。面。と。素。有。木。所。の。小。道。拂。有。小。客。有。と。更。客。を。合。有。小。定。り。ま。れ。木。と。自

餘の大王は還て卯酉の年を度し、
主と回宿の老女僧との居る、
家臣の太塚信濃成孝と、
我々の三親を、
十枚可を、
も、
前、
年、
傳、
是、
茶、

敗、
盡、
今、
る、
庵、
十、
わ、
情、
雲、
朽、

腰こし佩ひの玉。

[illegible]

氣も又庵まゐり向て這入り喧嘩買とる。價何なりぬと思ふ。と問を庵主
 彼も又智價の思僧。知て無三自れ三百ナレ。直に取せぬ。といひ成考
 懐よりいふ。小方金二匹を鼻紙から取て奉と庵主。魚が庵主
 受けては悦び現にもある過がある。造化之と謝し硬を賣せ。庵主
 實を成考。小寫で渡さ聲高なる尼前真頭。左刀衿。わいの路入
 わいのむき。推並七事とある。せむと追従款待喋々。お茶や僧が登
 る水あり。汲りとある。子桶を引提てゆ。東の方へ池を成考。ハ語りと。
 又庵主。まゐり向て這庵。井か多や。と向う巻を然に素。この庭の東のか
 清泉あり。二十六時中涌ゆく。水の富ゆる十粒有。新前の秋晴く地震。時よ
 山も大石滾落。ま井幹をも碎死のこも。揺入て井を空れ。是も水を失
 ひり。今た四ノ月。あな。波。のにはきを成考。あら。す。不



使ふるをなす。然るも、唐の樹根を
得間にも故ある。とせり。又其石を見に、檣頭、
哥、和殿の柱力、大那太石をわたり、轉、遠く見
笑てお我とも。五丈、土小あまされ、いへば、思ひぬとも。成敷不成就試たといひ
つ羅外木長を脱指と野蔭の枝枯、形能のうへ、縛し其身を垂、や其大
石の邊、我に近ぐと撞、胸小貼、計、小石の高、五尺計上、尖りと下る。徑四五
尺、あふれ、井を穿、深も理り、中、炭百貫ぬむやん、実、千尺の巨石を、悋順、ハ
物もせじ、度、身を松に推、試る、小苗の揺る、如、揺られけ、是、二、場と、西、手を
曳と、一、石と、振反、廿、千、尺の、巨石、根を、離れ、只是、白を、轉、正、像、悋順、のもの、
從、三、三、大、水、あり、又、移るを、楚と、推、居、け、大、石、散、小、餘れ、連、なり、北、東、偏、中、
度、瀝、此、已、まれ、親、女、衛、道、節、現、八、兵、衛、り、其、頭、わ、あ、は、圓、方、の、輕、重、或、

八十九十或の百十有餘を最の傍易小令授取へ。敗井の面小君。如く立
 地小井幹城に其水溢れどありけり。今、是事の老景小庵主のさる庭門の邊小
 在りける。石平の水を汲拿と。ろろあふ。日宿の女僧え俱小膽を潰て引提
 てをけ。桶を令ま落す。道新離れて激と散水小四下のへ。辟易と大教吐と。大
 け。姑且と大村大と。大回曹。後小白ひてり。和殿并小大江大。大制の力
 藝を見。庵主小水をぬす。是も赤仁の一綱中。武の至りとのなめ。自
 省又文を。復泉の記を賜。んと。墨耳の筆を抜。出。や徐小併の立。京
 拔と。直。輪を源。石。平。垣。ある。処。記。大。一。端。を。寫。着。る。小。亭。の。稿。を。詔。ある。と。あ。
 蓮の糸を引。如く。速。小。細。り。果。て。綿。左。歌。も。て。替。あ。せ。り。
 有。道。の。夏。い。せ。く。思。や。あ。ん。且。文。の。語。あ。る。と。も。上。に。見。て。大。同。の。力。あ。り。た。り。氏
 小。を。取。小。の。語。の。ゆ。て。り。い。れ。難。ま。る。元。當。不。凡。智。是。を。見。て。大。同。の。力。あ。り。た。り。氏
 大。村。の。大。も。示。得。や。然。い。と。今。言。小。後。小。悔。や。其。一。夜。も。以。初。手。可。を

如大即滅ハ
 加色水等
 秘益
 相距也

寶歌三
 寶歌四
 寶歌五
 寶歌六
 寶歌七
 寶歌八
 寶歌九
 寶歌十
 寶歌十一
 寶歌十二
 寶歌十三
 寶歌十四
 寶歌十五
 寶歌十六
 寶歌十七
 寶歌十八
 寶歌十九
 寶歌二十
 寶歌二十一
 寶歌二十二
 寶歌二十三
 寶歌二十四
 寶歌二十五
 寶歌二十六
 寶歌二十七
 寶歌二十八
 寶歌二十九
 寶歌三十
 寶歌三十一
 寶歌三十二
 寶歌三十三
 寶歌三十四
 寶歌三十五
 寶歌三十六
 寶歌三十七
 寶歌三十八
 寶歌三十九
 寶歌四十
 寶歌四十一
 寶歌四十二
 寶歌四十三
 寶歌四十四
 寶歌四十五
 寶歌四十六
 寶歌四十七
 寶歌四十八
 寶歌四十九
 寶歌五十
 寶歌五十一
 寶歌五十二
 寶歌五十三
 寶歌五十四
 寶歌五十五
 寶歌五十六
 寶歌五十七
 寶歌五十八
 寶歌五十九
 寶歌六十
 寶歌六十一
 寶歌六十二
 寶歌六十三
 寶歌六十四
 寶歌六十五
 寶歌六十六
 寶歌六十七
 寶歌六十八
 寶歌六十九
 寶歌七十
 寶歌七十一
 寶歌七十二
 寶歌七十三
 寶歌七十四
 寶歌七十五
 寶歌七十六
 寶歌七十七
 寶歌七十八
 寶歌七十九
 寶歌八十
 寶歌八十一
 寶歌八十二
 寶歌八十三
 寶歌八十四
 寶歌八十五
 寶歌八十六
 寶歌八十七
 寶歌八十八
 寶歌八十九
 寶歌九十
 寶歌九十一
 寶歌九十二
 寶歌九十三
 寶歌九十四
 寶歌九十五
 寶歌九十六
 寶歌九十七
 寶歌九十八
 寶歌九十九
 寶歌一百

寶歌一
 寶歌二
 寶歌三
 寶歌四
 寶歌五
 寶歌六
 寶歌七
 寶歌八
 寶歌九
 寶歌十
 寶歌十一
 寶歌十二
 寶歌十三
 寶歌十四
 寶歌十五
 寶歌十六
 寶歌十七
 寶歌十八
 寶歌十九
 寶歌二十
 寶歌二十一
 寶歌二十二
 寶歌二十三
 寶歌二十四
 寶歌二十五
 寶歌二十六
 寶歌二十七
 寶歌二十八
 寶歌二十九
 寶歌三十
 寶歌三十一
 寶歌三十二
 寶歌三十三
 寶歌三十四
 寶歌三十五
 寶歌三十六
 寶歌三十七
 寶歌三十八
 寶歌三十九
 寶歌四十
 寶歌四十一
 寶歌四十二
 寶歌四十三
 寶歌四十四
 寶歌四十五
 寶歌四十六
 寶歌四十七
 寶歌四十八
 寶歌四十九
 寶歌五十
 寶歌五十一
 寶歌五十二
 寶歌五十三
 寶歌五十四
 寶歌五十五
 寶歌五十六
 寶歌五十七
 寶歌五十八
 寶歌五十九
 寶歌六十
 寶歌六十一
 寶歌六十二
 寶歌六十三
 寶歌六十四
 寶歌六十五
 寶歌六十六
 寶歌六十七
 寶歌六十八
 寶歌六十九
 寶歌七十
 寶歌七十一
 寶歌七十二
 寶歌七十三
 寶歌七十四
 寶歌七十五
 寶歌七十六
 寶歌七十七
 寶歌七十八
 寶歌七十九
 寶歌八十
 寶歌八十一
 寶歌八十二
 寶歌八十三
 寶歌八十四
 寶歌八十五
 寶歌八十六
 寶歌八十七
 寶歌八十八
 寶歌八十九
 寶歌九十
 寶歌九十一
 寶歌九十二
 寶歌九十三
 寶歌九十四
 寶歌九十五
 寶歌九十六
 寶歌九十七
 寶歌九十八
 寶歌九十九
 寶歌一百

して井の真言のるあり。外祖の祀を小任せて思てあり。是れ及ぶる者。
 爲小任ゆららむ。柱と思意の任て。と論まる金子を受せし。用を告て
 立出れ。庵主と女僧の満面春色。あまを造花や。物休る。陶器で水を注
 ぐ。小葉茶靡の花。同せある。功德廣大。弥陀佛の々と念ふ。
 送れしある。只得金子を受命せ。走下り。而折々の邊。小跪居て待る。
 下。這時大夜大日。大山大川大村大田大飼等の諸大士。大照大と共侶小殿
 出。門前中より成孝の事ある。恥て伴當大役を從ふ。又復路次を
 が。當下層平大塚を留めし。小可る白屋は。遠か。御常暇
 中折か。まゐる。老婢小御殿の。多る。原と。坐井の首尾を報。わが他。強ひ
 意外。小出て。前より茶を煮て待ゆ。平立寄せあり。と請ふ。成孝。安
 否。否。と。這一路人。多る。原の。俟せ。那。里。へ。や。送。愼。息。を。言。ふ。

中七秋を分つへ。といひ先件若黨小坊付て作らる。同一文字の力を考
 笑の心小藏の事を。局平小泉の暇を合ふらる。歸て衆人と俱小路次を考
 中七局平の猶去難て。後は跟つ。本小石を成考。諸大士の見らる。并
 論者。加路野町計事も。只得耳。里の七別を。七己が宿所へ還りけ。
 局平并小石。中見ふの。遠下小話。然大塚は考。小件の同一文字の
 本力を異。口口匠小研せ。小素より。雙ある名。あり。ある。五。五。五。
 斯。土。鉄。せ。又。い。や。あ。ま。れ。が。則。同一文字の。輪。と。銚。又。是。小。皆。具。上。表。
 装。小。小。を。盡。さ。を。か。が。同一文字の。經。り。と。大。小。一。對。の。名。物。小。做。り。と。考。
 後。見。孫。中。を。傳。へ。け。故。あ。も。我。成。考。の。志。考。多。那。村。友。の。大。力。の。知。れ。久。
 其。身。の。有。小。做。り。を。毫。の。香。空。高。の。心。あ。天。の。遠。訓。を。果。え。と。成。成。金。小。
 返。ふ。ま。あ。小。と。發。ら。る。を。於。是。小。祖。傳。の。名。力。を。の。る。便。是。天。の。配。劑。

墓の伊豆の
 掘越の古く又
 大塚の

善小報の墓を以て。物。おき都皆善思耶正小縁するを。世人等、
 道理を如く。不孝の利を成るす。小負りと譽をえ。耶耶小大損
 あり。人。子孫の造りて。福あり。成る。有る。一。善小報の墓の
 あり。子孫長久の至寶。不損。あり。大。同。話。休。題。今。程。小。大。全
 大。照。天。又。五。七。日。の。夜。宿。を。も。武。藏。國。豆。嶋。を。築。浦。の。本。小。今
 本。の。路。の。程。菅。荒。大。塚。の。御。大。塚。信。濃。の。故。郷。を。三。親。の。墓。香。華。院。を
 在。り。大。川。莊。の。女。の。外。塚。大。銅。理。人。兵。衛。の。実。大。塚。の。墓。の。あり。俱。の
 立。り。て。墓。詣。を。ま。す。後。来。不。轉。の。木。香。料。を。寄。進。せ。り。り。れ。も。成。小
 美。濃。路。の。夜。葬。の。觸。機。已。て。せ。り。淹。留。三。日。及。小。今。又。具。頭。小。塚
 草。を。喫。り。親。の。墓。より。い。ま。公。道。を。疎。わ。て。私。事。小。就。る。小。似。も。其。主
 詣。の。事。も。異。日。の。便。里。を。俟。り。不。知。と。思。ひ。人。久。ま。あ。皆。共。信。小。作。の。師。邊。小

魂を招いて
 其墓を安
 房の延命
 寺小

造り。然。然。這。三。大。主。の。年。坐。り。て。集。成。主。小。願。の。京。石。俱。大。塚。の。御。小
 あり。是。等。の。本。意。を。果。せ。り。入。道。和。八。大。山。道。策。と。実。等。と。や。身。濱。路
 建立。も。大。塚。下。野。其。大。塚。原。有。度。と。論。母。福。城。其。女。兄。妻。子。小。今
 兄。妻。に。及。実。母。の。墓。石。小。同。寺。小。建。て。子。子。孫。孫。小。至。る。て。年。迄
 附。心。の。祀。念。を。する。り。と。也。這。大。村。大。塚。小。初。大。銅。理。小。伴。れ。て。善。里
 赤。岳。を。出。し。時。実。大。塚。墓。又。毎。夜。香。華。院。の。香。華。料。を。寄。進。せ。り。布。衣。の。小
 其。實。香。華。院。ま。ま。く。も。あり。と。大。田。曹。臣。後。の。相。父。女。と。女。の。墓。の。行。徳。小。在
 大。吾。兵。衛。の。墓。の。隣。田。小。在。り。又。大。江。親。兵。衛。の。大。文。并。子。三。親。山。林。房。小
 活。蘭。の。墓。市。河。の。御。中。在。り。是。等。の。里。見。の。對。内。小。且。大。江。屋。依。女。と。其。妻
 小。濱。と。遠。代。の。諸。寺。小。香。華。を。絶。と。る。又。政。木。大。主。小。又。河。野。守
 如。の。墓。を。建。せ。思。ひ。て。あり。里。見。殿。小。願。の。京。石。俱。武。藏。國。豆。嶋。を。日。也。の

寶傳寺の起り小那里、小坂智の五十子の城小を、時孝嗣の爲に
守如の墓を造建。且寺の額破小及びを修復する。この折廻七世を
感涙坐小吐を小飲を大なる事。又永年の香華基所料を、香
華基の寄布を、と安え。今、別小供養を、夜事を、只香
華基小墓ある祖と、母の爲に、香華料を寄進。然るに、大
阪の其朋友の爲に、信る大功德を、ある。友と香嗣小吉。知せ
其、あつらひ、小隨を、香嗣深く感佩し、福村を、本、遠き
小智小の、君子と稱て、三拜の礼を、おへる。是れ、是、是、
の後、小智小、小、小、其、席を、諸兄の礼ある。如、旅する日、
る、は、是、是、皆、後の話、説る、今、語、次、更、一、け、れ、集、り、て、意、結、
の、同、話、休、願、介、程、小、大、士、方、照、芥、柴、浦、へ、本、ゆ、程、小、去、向、木、薩、の

便宜を相談。小照大の、ち。三里、水路を、例、崎へ、還、ら、速、く、と、使
路、ある。勅、額、ある。御、教、書、あり。然、る、風、清、の、言、指、を、思、ひ、近、れ、を、會、
合、小、あり。も、口、下、總、と、座、上、總、小、を、座、路、と、互、に、か、ら、め、と、談、話、を、
大、い、安、を、い、う、と、然、近、遠、路、を、の、大、坂、の、故、事、小、て、美、濃、路、小、を、
勢、を、目、を、縮、め、と、早、く、還、る。今、尚、秋、旦、有、の、時、あり。冬、の、海、の、暴、小、
似、も、況、大、士、の、身、を、備、る、靈、主、あり。且、勅、額、の、故、事、を、伏、姫、神、の、擁、護、
あり。小、何、等、の、言、指、ある。と、談、話、大、士、も、皆、諸、を、師、父、の、大、断、
勇、あり。理、あり。徑、小、水、路、を、入、る。と、則、這、浦、小、て、巨、航、一、艘、を、備、ひ
り。七、這、夜、七、月、二十、二、百、の、月、の、出、る、時、候、も、御、見、を、解、と、小、果、し、て、順、風、
り、けれ、同、船、の、主、僕、百、十、數、名、枕、を、高、ら、ま、る、海、邊、を、小、船、の、走、る
と、幾、十、里、あり。け、ん、次、の、日、の、左、側、小、洲、崎、の、港、口、小、入、り、小、け、り

作者云、本編の腹稿と云ふ文、其の序に「平六の巻」の腹稿の附録目を追加
 せしむ。これと云ふ大なる皆改の題目のせめて附録目を省めり。這二回改の
 題目の所を改め、且長編なれば別な附録目をして二回とす。此の腹稿の
 あるを、法會の廣ある故、其の末を思ひ、初を平也又改帳一ヶ
 れうち、其の難て這二回あり。抑結城の法會あり、其の續て白濱延命
 寺の改葬の事あり。其後又水陸施餓饉の大法會あり。改めし最後
 至りて金蓮寺にて追葬の事及招華庵の結局あり。約莫一部の俤
 史小説の任多て佛事のうち續を厭て罷り果る。作者の用意で
 思ふに、蓋其祖父母弟兄の爲に恥を告用いせむと追薦の佛事、法
 會を修むる愛の孝子忠信順孫美士の心あり。此の所にて本傳の
 大題目善を勸む惡を懲む約束の終つて、這事あり、あるなり。然

とも侍事、孰も侍事にて別れせんとも見者ある、其事相似て其趣の
 異を好者官のかつて知る、克念お有る厭て反て喜を
 るもあはれ、左の右の老婆深切あり、爰の評注も、覆覆描面をも、異
 正の、和立者の友小原、成とせん、
 第百十四中、義成、功臣を重賞して、女を妻とせ
 新説、公太、大照文の主、僕百十數名、其松洲崎の小る、本、別勅額と
 沖叔書を相捧けて、榴村の歸城して、意を重と上り、西家、老東辰相
 荒川清澄執事、次、の月、義成主小見参り、京師の首尾、伏座神小勅額、
 事、大を大禪師の做され、より、詳し、彼えと、侍の勅額と、室町殿の
 御教書を見せ、せむらと、れ、義成主拜戴欣悦、大々あると、大照文大
 士、告て、常々、滋養の徑、小龍田の城へ参り、て、這をを、老鑑、小書、上、勅額、の

事ハ異日ノ沙汰ナリトシ林檎ノ命アリ其ノ九士二僧ハ歸リ
留田入道ヲ義實老侯ハ拜見シ其告事ハ事毎ハ義實歎ハシ
わらハテ那師路ハ三福體ノ事相天字ノ大ノ事美濃ノ金蓮手ト
信濃ノ招華庵ニテアリ奇事大田豐後力技ノ千方人勝レトス
其ノ初リテ感歎ナリ其ノ事ハ義實主ノ事ハ其ノ後ハ義
成義道君面家老諸士更ニ件ノ奇事ヲ告知セテ駭嘆セラルル皆
其ノ奇感ヲ修テ稱賛セラルル信而義成主ハ有功ノ諸臣ヲ賞
祿ノ沙汰アリト一日瀧田越後義實老侯ト商量アリ其ノ國府
臺ノ秋ノ番士ノ頭人貞同并從三郎延橋錦四郎洞註鳥子長振照良叔
二天明ノ國鳥山真人ハ其ノ行徳更ハ成小置レタル石電次國を越郷三
市河大屋屋依及西國河原向水五十三本枝獨銘素手吉小至モセ

威福村入道有信一程小落餘七有極詎來復村有法印豪
前を初シ先度ノ謝恩ナリト穂北村ハ諸本ハ其ノ主ノ所ナリ
則木道新小謂テ其伴當ト但小福村ノ城內小置置時ハ月十五ハ義
道主上ノ領目ナリ國守里見左將義成主鳥帽子朝服ナリ今朝義成
及小正應小着坐アリ面家老太士諸侍皆廣手目衣長社村ハ生
仕セザルハ第二番小太士モ出シ七番軍功ノ賞トモ各十坂ノ主ハ飯サ
サレ七米邑各二萬貫文ヲ賜フト仰リ但上總ハ郡縣廣且富饒ノ
地ナリ福村ハ遠レハ腹脹ノ象跡ヲ置リ其ノ故小胡意當國中死
傷ノ多小大ハ親兵衛ハ其ノ上總ハ館山ノ城主ハ飯サレ其ノ事ハ
いモ左任ナリ且義實ノ定アリ然レテ這面飯サレ當國館山ノ城主トモ其城
其北小遠小城郭ヲ建シ左任ナリ格或ハ家老ノ上席小上太夫ナリ

と自親仰渡され且東辰相を其城邑の目録を成下されり君臣
自餘も大士かきも其情小美するて是を其目録を拜見あらねを
恩賞也其同有仁の事をも其次第左の如し

安房國館城主	米邑一萬貫文	上大夫	大は親兵衛尉金碗仁
同國東條城主	米邑一萬貫文	上大夫	大信濃守金碗忠勝
同國大縣城主	米邑一萬貫文	上大夫	大坂下野人金碗忠智
同國神戶城主	米邑一萬貫文	上大夫	大村大學頭金碗利儀
同國朝野城主	米邑一萬貫文	上大夫	大坂新市刀生金碗忠興
同國小長城主	米邑一萬貫文	上大夫	大川長次井金碗忠任
同國神餘城主	米邑一萬貫文	上大夫	大銅現兵衛佐金碗信通
同國赤古城主	米邑一萬貫文	上大夫	大田曾後次金碗忠順

ととありは次小東六郎辰相荒川庫兵衛清澄を石を七恩賞あり其西家老の
忠誠舊老女元貞行小力りも其情小美するて是を其目録を拜見あらねを
恩賞也其同有仁の事をも其次第左の如し

伯仲と傳小其父の重職を嗣小足れり而を七家老とも米邑一萬貫文の時
三十貫文を其父の重職を嗣小足れり而を七家老とも米邑一萬貫文の時
伯仲と傳小其父の重職を嗣小足れり而を七家老とも米邑一萬貫文の時
三十貫文を其父の重職を嗣小足れり而を七家老とも米邑一萬貫文の時

圖書即豐後を召きて那身ハ都て約束標榜を軍師胤吉の計策小從を
 大敵を大敗を其方所の近小普罪を償ふ足れ。あをりて舊地を
 返りし故の如く上總國榎木の城主小僧。舊臣を召取す。還任まじ
 從父次女姫重代四郎與保其孫十條ノ前十條大郎満呂復五郎重時
 満呂再本那信重。安西駐々景重破崎増松有親館持又指搦儀伏朝經
 大樟村ま後安を一同小郎と與保奇子崎の賊難以來屢大江仁を幫
 即て大功ありあす推登七兵頭小僧。十條力二尺ハ高初小大普音
 苦肉の計を仍ひぬる那大功の賞うて弟兄共次鷹君の唐堂小僧を
 月俸三千六十口を四増て各三千口を賜ふ。又又重時信重景重有
 親の戦功歟。勲をあらを重時を兵頭小僧。信重景重有親の右衛
 門佐殿。小仕へて俣小進習う。と仰る。又朝經後故ハ柳高小因重を

其地之長小假されし。いふ。良を憐て。循吏の操を行ふ。と。と。と。指さる。
 其後。唐。純。給。之。て。有。種。誦。來。陳。宗。并。名。義。成。主。小。見。參。と。這。有。種。の。義。
 士。大。士。の。い。と。當。家。小。仕。へ。る。以。前。も。其。弟。助。小。あり。と。勘。し。て。女。
 え。ら。況。僅。る。小。兵。を。と。忍。國。の。叛。を。拔。く。小。及。て。大。山。頭。前。が。軍。勢。が。つ。
 一。最。當。家。へ。家。前。亦。俠。者。と。有。種。を。弟。助。て。當。家。の。為。小。忠。あり。
 あ。を。と。有。種。小。下。總。節。の。郡。小。新。領。當。家。を。賜。小。舊。地。北。五。ヶ。
 村。と。共。小。近。見。を。鎗。領。ま。す。但。房。總。東。軍。の。一。隅。と。化。郷。の。風。俗。を。與。
 小。和。小。由。る。有。種。幸。小。武。藏。中。在。り。生。平。小。薩。國。の。珍。説。を。播。そ。利。
 實。も。小。稻。村。に。注。進。ま。り。又。家。前。當。家。の。祈。願。所。小。假。る。今。より。と。新。
 毎。小。米。粟。百。石。を。賜。之。と。恩。命。あり。且。有。種。の。妻。皇。女。小。賢。女。と。も。良。
 人。を。諫。め。徳。あり。と。あり。と。父。君。と。して。譽。言。を。あ。り。不。水。小。石。重。次。團。太。越。

鮎之白水五十五天。板鴨結素手。大日屋。俱不見。余を説き。且
恩賞あり。次國太。行徳。臨瀛の長。小使。且。新。三。其。大。後。中。せ。も。又。依。が。五
三。大。系。手。吉。小。使。が。く。市。河。西。國。河。常。小。左。伴。て。國。府。堂。の。城。小。事。あ。り。時。能。務。の
頭。人。も。へ。し。も。月。俸。各。五。十。口。を。賜。ふ。這。四。個。の。町。人。の。或。が。大。江。親。兵。衛。小。使。の
或。が。政。太。大。全。小。使。の。思。ひ。あ。り。義。あ。り。戰。功。あ。れ。ば。俱。小。武。士。小。執。事。を。座。を。帶
力。を。え。ぬ。け。り。是。當。り。皆。新。國。の。あ。る。が。會。を。え。せ。れ。る。あ。る。也。謹
第。の。家。臣。の。功。あ。り。者。か。恩。賞。を。豐。嶺。十。郡。小。文。を。負。ま。す。抑。照。文。を
招。賢。の。使。を。奉。り。そ。う。大。派。師。兵。部。小。國。の。八。割。を。巡。歴。せ。る。始。ち。三。本。示
和。の。使。を。ぬ。る。中。七。切。あ。り。と。い。ふ。と。あ。の。あ。る。も。一。應。祿。を。推。登。し。海。軍
城。大。兵。頭。と。も。後。祿。も。又。加。増。て。三。千。貫。文。を。賜。ふ。且。那。早。小。田。見。る。元
故。の。親。族。の。子。と。い。ふ。若。黨。直。塚。紀。三。六。を。女。婿。奉。嗣。小。と。女。兒。山。鳩。を

妻。せ。う。り。と。い。ふ。宿。願。の。故。小。用。召。を。え。せ。ぬ。願。の。隨。意。ま。う。と。て
則。紀。三。六。を。召。ふ。然。小。直。塚。紀。三。六。と。當。嶺。十。三。郡。照。章。と。夜。も。と。義
則。小。見。參。と。代。り。京。師。小。在。り。と。大。江。親。兵。衛。の。部。助。小。依。り。と。い。ふ
有。功。の。者。あ。り。と。と。龍。田。の。城。の。番。卒。の。數。人。小。依。され。け。り。這。北。軍。功。あ。る。者
士。の。每。小。森。但。前。高。宗。御。東。小。六。明。相。荒。川。大。郎。清。英。鳥。山。英。由
世。兵。頭。の。上。座。能。る。又。浦。安。手。助。友。勝。田。稅。力。助。逸。友。登。相。六。郎
重。千。木。曾。三。六。奉。す。元。田。稅。力。賀。九。郎。逸。時。首。屋。八。郎。景。能。を。俱。小。相
村。の。兵。頭。小。依。さ。り。又。小。水。門。目。堅。兵。部。小。使。足。東。時。前。三。春。高。山
滿。田。城。の。兵。頭。と。も。白。濱。十。郎。七。河。三。郎。朝。弟。三。輪。の。故。の。右。衛。門。佐
殿。小。使。す。と。と。近。習。の。上。座。も。へ。と。都。て。其。秩。祿。を。加。増。さ。り。と。各。奉。り
又。貞。田。井。根。主。那。秋。季。結。橋。綿。四。郡。高。梁。洞。鷲。主。内。美。谷。根。照。俱。教

其の老臣松倉木曾が武元并み小森篤宗浦安衆勝を二口せき
 其兒子等の軍功の賞として武元貞行中養老料美田各五百貫大橋士
 兵馬込各三百貫大を賜ふと仰る又東西和睦の祝壽を真光と
 上理墨江及び世の使者天津九西部員朋及葉野阿除七
 橋村等六次國太當小就て来る。今井河原の木丸八安房上總下總各村
 長政老當小来る。中で東西を賜ふる所なり。其後、大禪師を召

批

是て義成あり。其年來の大功德を奉じて東版の一切經と唐の古本立の画
 白衣觀音の大黒幅と沈香十斤を賜ふ。又勅眞音音申入。單
 衣の共子を流る。別席小る。義成あり。其功を與えて有銘の經
 於各一。夏及の衣各二。張金。各一百面を賜りける。然らば君國の
 者。就に拜舞せざる。貧乏の聲内外小充て。被れ連つ。退と。二聖を
 推分られ。國守の慈善と。其富を仰れ。感でさる。あり。けり。臣而
 義成。又大禪師と。大士等。を。宣。我師君を神。故さ
 され。賜。勅額。我意。富。岳。岳。石の。大。倉を。造。建
 藏。神體。小。故。且。岳。臺の前。石の。云。扉。門を。建。勅額。横
 字を。掛。意。禪師と。大士。奉。早。石。小。課。寺。用。い。人
 只。淨を。旨。と。言。可。寧。小。仰。と。大。大。士。奉。り。其



此の事起て近工をその程小敷英三目許と成
 ちこれ則勅額を神體とて別所明神の神倉祝詞を誦し法樂を奏
 大禪師は同師中太山寺及長命寺の衆徒讀經七卷座の作法を遂
 られぬ遠近の男女山路を厭ひ諸君有と多りけり有信の程の上總會
 教の推津の城主貞良公信昭の嫡子柳井十一歳迄初七柳井小太敷
 老童賴入七大夫嫡女信昭の嫡子柳井十一歳迄初七柳井小太敷
 るあつた。奉勤願寺引及ふ。真果を八里見の道家あり。權且柳
 村の族内小留る。柳井見奉の目小當金五枚と主垣を呈し。勅見を
 成。成。柳井小太敷を賜ふ。又義成主。又士四家老。皆を召取
 合。大個の息女達を養育妹の長あり。并。又本回下の編。鮮分皇を應けり。
 南總里見。大傳家九輯卷五十五終

丁保十二丑年
夏五月廿六日移

筆
著作堂口授稿
福硯壽
大吉
利

